



池尻大塚古墳

関市遺跡探訪

市内で見学できる遺跡のうち、主な8遺跡を紹介します！！



弥勒寺官衙遺跡

関市文化財保護センター

小瀬方墳（山王通）

小瀬方墳は山王通西に所在し、東海北陸自動車道と県道79号が交差する地点の北東に位置します。

四角い形をした方墳で、3つの段があります。規模は東西23m、南北22.6～24.5m、高さ3.3～3.7mです。

発掘調査が行われていないため、築造時期や構造は不明ですが、美濃地方各地の有力豪族の墓に大形の方墳が採用される7世紀前半に造られたと考える意見があります。

市内には小瀬方墳の他に池尻大塚古墳、御前塚古墳、八王子古墳などの方墳が、ムゲツ氏の氏寺である弥勒寺跡を中心に密集しています。これらの方墳にはムゲツ氏に関連した人物が葬られている可能性があります。



全景（南から）



● 展示施設



関市円空館

関市池尻 185
開館時間
AM 9:00～PM 4:30
休館日
月曜日（祝日を除く）
祝日の翌日（土・日・祝日を除く）
年末年始
入館料 250円（一般）
高校生以下無料
☎0575-24-2255



塚原遺跡公園展示館

関市千足 1777-1
開館時間
AM 9:00～PM 4:30
休館日
月曜日（祝日を除く）
祝日の翌日（土・日・祝日を除く）
年末年始
入館料 無料
☎0575-28-5955



関市武芸川ふるさと館

関市武芸川町八幡 1566
開館時間
AM 9:00～PM 4:30
休館日
月曜日（祝日を除く）
祝日の翌日（土・日・祝日を除く）
年末年始
入館料 無料
特別展開催時は除く
☎0575-45-3010



せきてらす（観光案内所）

関市平和通 4-12-1
開館時間
AM 9:00～PM 5:00
休館日
月曜日（祝日を除く）
祝日の翌日（土・日・祝日を除く）
年末年始
入館料 無料
（1月2日を除く）
☎0575-23-1670

関市文化財保護センター
関市武芸川町八幡 1446番地1
電話番号：0575-45-0500 FAX：0575-46-1221
URL https://www.city.seki.lg.jp

令和6年3月

弥勒寺官衙遺跡群（池尻）

国指定史跡・弥勒寺官衙遺跡群は、関市池尻の長良川河畔を中心に広がる古代寺院や役所（官衙）などの遺跡群です。1959（昭和34）年、弥勒寺跡は、美濃の伝統的な古代豪族ムゲツ氏の氏寺として、国史跡の指定を受け、また、丸山古竊跡（美濃市大矢田）は「弥勒寺」に瓦を供給した竊跡の一つであることから、合わせて指定を受けています。その後の調査で弥勒寺官衙遺跡は2007（平成19）年、池尻大塚古墳は2016（平成28）年に追加指定を受けています。

弥勒寺跡は、7世紀末頃に建てられた古代寺院です。東に塔、西に金堂が配置された法起寺式の伽藍配置で、蓮華の模様がついた軒丸瓦や布目のついた平瓦、緑釉の陶器、螺髪（仏像の頭髮部分）、「大寺」と墨で書かれた土器などが出土しています。

弥勒寺官衙遺跡は、古代の郡役所を構成する施設がまとまって把握できる重要な遺跡です。中心施設の郡庁院は、東西50m、南北60mの堀で囲まれた範囲に正殿、脇殿と呼ばれる建物が建っていました。背後には南北40m、東西130mの溝に囲まれた正倉院があり、米を納めた倉庫が建ち並んでいました。



全景（北から）



弥勒寺跡 塔心礎



片山西塚古墳（小瀬）

片山西塚古墳は関市小瀬字片山に所在する関市内唯一の前方後円墳です。長良川左岸の沖積地を見下ろす丘陵裾部に位置し、片山東塚古墳と共に片山古墳群と呼んでいます。長良川対岸の池尻地域には、国指定史跡・弥勒寺官衙遺跡群が所在しています。

2003（平成15）年に範囲確認調査を行い、この成果により、2018（平成30）年2月1日、関市指定文化財に登録されました。墳丘の規模は、22.3mです。後円部は径14.9m、高さ2.1m、前方部は長さ10.1m、高さ1.7mを測り、前部の幅は約14.5mです。埋葬施設は後円部にあり、3基の墓壇を発見しました。墓壇1は、幅1.15m、長さ約3.2mで、最も規模が大きく、頭位は北東方向と推定されます。墓壇内の上で礫を検出しましたが、いわゆる竪穴式石槨の蓋石ではなく、埋葬方法は木棺直葬と考えられます。他の2基は規模が小さく、墓壇1の被葬者に従属する人物の墓壇であると思われます。墳丘上には葦石が確認できます。墳丘の南側を中心として塚がありますが、全周はしません。前方部の右隅角は丸く収まった形で、左隅角は塚が巡らないことから緩い傾斜を持たせた「墓道」であることが明らかになりました。

築造時期は古墳時代中期の可能性があり、被葬者は古墳時代に活躍したムゲツ氏の一族で、古代武義郡全域を掌握した首長層と推測できます。



全景（南から）



復元図

池尻大塚古墳（池尻）

池尻大塚古墳は、池尻山の支尾根の裾に造られた古墳で、古代の武義郡を治めたムゲツ氏の墓と考えられています。2016（平成28）年、国指定史跡・弥勒寺官衙遺跡群の追加指定を受けました。

墳丘の盛土が失われ、石室の石材が露出しているところから「美濃の石舞台古墳」とも呼ばれます。

2008（平成20）年に第1次の範囲確認調査、2011（平成23）年に第2次の範囲確認調査と天井石を取り外して石室内部の発掘調査が行われました。これによって、規模は一辺が約23～25mで、2段に築成されていた可能性があり、前面をやや西に傾けた不整な方形をしていることがわかりました。地形に制約されながらも眼下の長良川を意識して造られたと考えられます。

石室の調査は玄室の床面積の30％程度に限られましたが、巨石を用いた立派なもので、床面は平たい円礫を敷き詰め、きれいに整えられていました。石室内からは土師器の小壺と須恵器（坏蓋）の他、鉄地金銅張（鉄の地金に銅箔を張り、金メッキを施した）飾金具が出土しました。馬具（貴人が乗る馬を飾る装具）か胡鋸（矢を入れる筒状の武具）の飾りの一部と考えられます。



石室（南東から）



玄室 完掘状況



鉄地金銅張飾金具



石室内西側壁と床面

落洞1号古墳（武芸川町小知野）

落洞1号古墳は武芸川町小知野にあります。権現山の山麓で、西洞谷川左岸に位置しています。

2021（令和3）年の内容確認調査の結果、墳丘は直径約16m、高さ約4mの円墳であることが確認できました。全長9.1mの横穴式石室を持つ後期古墳で、武芸川地域では最大規模です。

山を削って基壇状の盛り土を行い、その上に古墳を構築していたと推測できます。また、古墳の西半分のみ葦石を行うなど墳丘の西側を見せることを意識して古墳の築造を行っていたと考えられます。

残念ながら、石室は盗掘を受けているため、副葬品はありませんが、武芸川地域を治めた豪族の墓であるといえます。



全景（南から）



御輿山古墳群（武芸川町跡部）

御輿山古墳群は武芸川町跡部に所在します。武儀川右岸にある標高146m程の御輿山の東から南向き斜面にあり、合計10基の古墳が見つかっています。跡部地区にはたくさんの古墳がありますが、御輿山には最も多くの古墳が集中しており、跡部地区の中心であった可能性があります。跡部という地名は約1,100年前の「和名類聚抄」という書物にみえる由緒あるものです。

地元では、第25代武烈天皇の御子が都から逃げて隠れ住んだという伝承があり、御輿山の山中にある神社は、王子を祀るために平安時代に建立されたと伝わります。南側の山裾にある大跡部王子陵は御輿山古墳群の中で最も規模が大きく、前方後円墳であった可能性が指摘されています。



大跡部王子陵（東から）



塚原遺跡・塚原古墳群（千足）

塚原遺跡・塚原古墳群は、関市千足にあります。長良川右岸の南向きの緩斜面に位置します。1987（昭和62）年、発掘調査が行われ、縄文時代早期・中期、古墳時代後期の3つの時期の遺跡が見つかりました。1998年から2001年度に遺跡整備を行い、塚原遺跡公園としてオープンしました。

縄文早期では、石囲炉・地床炉・炉穴など焼土や焼けた礫が残る屋外炉が多数確認されています。早期の縄文土器は、底部が尖るものが多く、石組みや穴に据えつけて煮炊きしたと考えられます。

縄文中期には、竪穴建物17棟、掘立柱建物19軒が見つかりました。これらの建物群は、時期差があるようですが、中央の円形の広場を囲むように掘立柱建物が配置され、その外側に竪穴建物が半円帯状に位置しています。中期の縄文土器は浅鉢や壺形土器などの器種も見られ、形状や文様など多様化しています。また、石器も多数出土し、特に石錘が多く、長良川での漁が盛んであったと推測されます。

古墳時代後期では、16基の古墳が発掘されました。大半が横穴式石室を持つ円墳で、6世紀後半から7世紀末まで約100年間にわたり順々に造られたと考えられています。石室内からは、坏、蓋、高坏、提瓶、甕などの須恵器の他、土師器、刀子、鉄鏃が出土しました。



全景（南東から）



復元建物

古町遺跡（平和通）

古町遺跡は関市の中心市街地の南にあり、独立丘陵の安桜山と長良川の支流・津保川に挟まれた台地上に位置します。東側には関川が流れ、対岸には中世に開鍛冶職の総氏神として信仰を集めた春日神社が所在します。

関市の観光拠点施設「刃物ミュージアム回廊整備事業」が計画されたことに伴い、2018（平成30）年度に発掘調査を実施しました。

発掘調査の結果、室町時代の鍛冶作業に関連する遺構・遺物を発見しました。炉跡や焼け土を含む土坑が多数重なる検出できました。炉の火力を高めるための送風装置であるフイゴの羽口や、炉の底に溜まって出来る椀型滓が計160kg出土したことから、鉄を溶かす作業が繰り返行われたことが分かります。その他に金床石や鍛錬の際に飛散した鍛造刮片、火花が空気中で冷やされてできる粒状滓も検出でき、鉄製品の加工を行っていたことが判明しました。製品と思われる短刀も出土したことから、刀鍛冶も行われていたと考えられます。

開鍛冶は室町時代の応永期（1394～1428年）に各地の鍛冶職人が関に移住して成立したと考えられており、古町遺跡は開鍛冶の起源や中世の関町を語る上で重要な遺跡です。

「せきてらす」の建物内には、古町遺跡の露出展示施設があります。



小鍛冶炉跡



小鍛冶作業 復元図

～関市と周辺の遺跡地図～

(隣接の市町村の指定遺跡)



< 遺跡の時代 >

● 旧石器時代

● 縄文時代

● 弥生時代

● 古墳時代

● 古代 (飛鳥～平安時代)

● 中世 (鎌倉～安土桃山時代)

● 近世 (江戸時代)

● 不明・その他

□ 山城

< 遺跡範囲 >

○ で表示しましたが、大半の遺跡は小範囲であり、遺跡印○下に隠れています。

令和5年2月現在、岐阜県遺跡地図及び関市遺跡分布図に登録してある遺跡を表示しています。
(全 365 箇所＝551 遺跡)

*「古墳群」などの多くは複数遺跡を1箇所として表示しています。

* 破線(---)は、開発等により現在は滅失している遺跡です (55 箇所)。

※◎市役所等 ☒学校 ◆展示施設



二次元コードから、各時代の遺跡を紹介する『関市発掘調査展 2020』図録を閲覧できます。

